

須藤夕子先生の 子供ポートレート 撮影講座

ひと味違う子供写真を撮ろう

今回のテーマ別講座は、子供の写真をもっと上手に撮るための「須藤夕子先生の子供ポートレート撮影講座」。スタイリッシュな子供写真を目指しましょう。

EOS学園東京校講師
須藤夕子 Yuko Sudo



1974年、神奈川県出身。3年間の大手広告代理店などのOLから転身した、異色の写真家。現在は、フリーランスとして雑誌やCDジャケット、広告など俳優やアーティストたちの人物ポートレート撮影を中心に活動中。また、「笑顔泥棒」としてNY、パリ、マイアミ、沖縄など世界中で子供たちの笑顔を撮り続けている。写真集に「Catch Your Smile!」(ゴマブックス)がある。

▶講座情報
女性のための写真講座
「子供ポートレート」(全1回)
3/20(土)
東京校 03-5565-3516
※詳細内容は情報別冊をご覧ください。

2 自然なしぐさや表情を撮る

子供の自然なしぐさや表情を写し出すには、服装や子供の視線などがポイントとなります。まず、表情に目がいくような写真を撮るためには、子供の洋服はなるべくシンプルな物がおすすめです。色や模様が派手な物だと、服に注目してしまい、せっかくのかわいい表情も印象が薄れてしまいます。ナチュラルな色使いにすると、着飾りすぎず、自然に見えます。次に、自然なしぐさですが、これはあえてカメラ視線にしないこと。遊びに夢中になっているときなど、子供に気付かれなように撮るというのも、撮り方の一つです。



小物をうまく使う

男の子は、思うようにジッとしてくれる子は少ないのでは？ 何かに集中している表情を撮りたい場合は、この写真のように小物を使って遊びに夢中にさせましょう。このとき、手前のハサミにピン트가合っすぎてしまいがちですが、目にしっかりピン트가合うようにしましょう。

EOS-1D Mark II・EF100mm F2.8 マクロ USM・F2.8・1/80秒・ISO250



服装はナチュラルに

この写真のような服装がおすすめです。また、こういった場面では、縦位置にすると広い空間の中で子供の小さな体が強調され、ミニチュアのようなかわいらしさが表現されます。画角もナチュラルに見える標準に近いレンズで撮りましょう。

EOS-1D Mark II・EF24-70mm F2.8L USM・F8・1/60秒・ISO100

3 屋外撮影では 逆光が基本

屋外で子供を撮影するときは、なるべく逆光で撮影しましょう。髪の毛に光の反射でできる「天使の輪」を写すことで、順光よりも被写体に立体感が出ます。また、子供の柔らかな髪質も表現できます。逆光は顔が暗くなってしまうので避けられがちですが、しっかりと顔を測光して撮影すれば、簡単に適正露出で撮影ができ、ひと味違う写真に。また屋外撮影では、撮りたい場所を決めてしまうのもコツの一つです。そこに向かって子供に走ってもらったり、その場所の周辺を遊び場にしたりすると、子供に撮影を強要せず、撮影者も子供の活発な動きに振り回されず撮影することができます。こうして、一緒に遊びながら撮影を楽しむことで、子供も飽きずに撮影に付き合ってくれます。



EOS-1D Mark II・EF24-70mm F2.8L USM
F5.6・1/250秒・ISO100



天使の輪を写しましょう

前述した通り、光の反射でできる「天使の輪」を作るためには逆光が必須条件。また、手前にレフ板を置か、地面が白っぽく明るい場所を選ぶと、子供の目にキャッチライトが入ります。

1 フレーミングを工夫しましょう

いい写真を撮る3つのポイントは、被写体の表情、光、そして構図です。子供の撮影に慣れていない人は、子供をフレーム内に収めることばかりを優先して、立っている子供を中央に配置して正面から撮影するなど、ありふれた構図になりがちです。360度、どの角度からも撮影できることを忘れないようにしましょう。また、曇った日は、空をたくさん入れると、天気が悪い印象の写真になってしまいます。そんなときは思い切って子供を真上から撮影し、芝の緑をたくさん入れると、曇りの天気も気にならない仕上がりになるので、おすすめです。このとき広角レンズが好ましいのですが、自分の足が写ってしまわないよう注意して撮りましょう。



EOS 5D Mark II・EF100mm F2.8 マクロ USM・F2.8・1/250秒・ISO500

パーツだけで表現

年賀状に子供の写真を使う場合など、毎年同じような表情になってしまいがち。来年は、わが子の成長を部分的に切り取ってアートな作品をハガキにしてみてもいかがでしょうか？



EOS-1Ds Mark III・EF16-35mm F2.8L II USM・F5・1/125秒・ISO320

見た人に 想像させるように切り取る

この二人は何を見ているのでしょうか？ 見ている先の物を写さないことで、写真を見る相手に想像する楽しさを与えることができます。



EOS 5D・EF24-70mm F2.8L USM・F5.6・1/640秒・ISO100

[卒業式、入学式で良い写真を残そう!]

卒業式や入学式など、限られた場所で遠くからわが子を狙う撮影は、本当に苦労しますよね。持ち込みが可能なら、三脚の使用がおすすめです。式典の最中の連写での撮影は、音も迷惑になりますので、控えましょう。成長をしっかりと見つめるという意味でも一枚一枚ピン트를合わせ、丁寧に撮影してみてもいかがでしょうか？ ここでは、卒業式や入学式のシーンで役立つ、屋内撮影と屋外撮影のコツを紹介します。

・屋内・

式典が行われる体育館や講堂での午前中の光は、外からの自然光と室内光のミックス光になると思いますので、ホワイトバランスは「AWB」に設定しておくのがおすすめです。また、体育館や講堂の中は見た目以上に暗いので、あらかじめ感度を上げておき、手ブレを防ぎましょう。

・屋外・

校門にある「卒業式」などの看板の前で撮影する人がほとんどだと思います。でも、子供が最後に、もしくは最初に遊ぶ校庭での姿や、友達と談笑する自然な横顔を撮ってあげましょう。望遠レンズでわが子だけを撮影するだけでなく、広角レンズで校舎全体や、その日の天気分かるように写し込んだ写真も良いですね。